

## 現代の和装具

A2201301 相田 惲紀子

### 研究の背景

現代日本では、漆製品だけでなく、工芸品・無形文化財とされる日本文化に目を向けることが少なくなっている。しかし、クールジャパン活動や世界文化遺産の登録などを通し、海外ではそれらが新たに認知されている傾向が見られ、そんな中で、海外での着物の認知度も高くなりつつあり、日本の美意識を表現する活動を通し和装が見直されてきている。そこで、現代に合った漆の装飾品や和装具の提案をすることで漆の認知度も高まり、ひいては、日本文化の新しい見方や新たな広がりとなるきっかけに繋がると考えた。

### 研究の目的

- ・若い世代でも目が向く和装具の提案。
- ・現代でも活用でき、かつ、今までの形状としてしっかり形が残る装具の提案。

### 研究のプロセス

○管迫		
	・曲面部分	・平面部分
1	粘土原型制作	ガラス盤に離型剤を塗る
2	石膏原型制作	下地付け
3	離型剤	麻布貼り(このとき麻布を漆と交互に三枚貼り付ける)
4	下地付け	下地付け
5	麻布貼り	脱乾(ガラス盤から外す)
6	脱乾(型から布を外す)	下地付け
7	下地付け	下塗り
8	下塗り	中塗り
9	中塗り	上塗り
10	上塗り	

○帯留め	
1	和紙に漆を染み込ませる
2	普通の折り紙の用量で和紙を折り、原型を制作
3	下塗り(下地をつけず直接塗りの段階に入る)
4	中塗り
5	上塗り
6	裏面に麻布を貼る
7	金具を取り付ける

○簪		
	・球の部分	・棒の部分
1	木地制作	
2	木地に漆を馴染ませる	
3	下地付け	
4	捨て塗り	下塗り
5	下塗り	中塗り
6	中塗り	上塗り
7	上塗り	組み立て
8	装飾	
9	組み立て	

### ○筥迫

・曲面の粘土、石膏原型



・平面乾漆板



・曲面、平面下地



・下塗り



### ○簪

・木地



・下塗り



・中塗り



・上塗り



### ○帯留め

・和紙と半紙で比較(右:和紙、左:半紙)



・模型



・和紙に漆を染み込ませた状態



・下塗り



## 成果物

簪、帯留め、筥迫(はこせこ)の装飾具一式を制作。帯留め、筥迫はそのものとしての機能だけでなく、現代にも生かせるデザインを制作。また、漆の触感やさまざまな材質にも使える良さも強調できるように木材、布、紙の三種類で制作した。全体のデザインとしては一年を通し使用できるよう、四季を中心に考えた。簪は舞妓の花簪を参考に、帯留めは春夏秋冬、それぞれの季節に合うモチーフを選んだ。

## 考察

今まで自分が経験してきた日本舞踊というものを生かして、この研究ができたことを嬉しく思う。日本舞踊や漆だけではなく、日本の伝統文化というものの自体、世代が変わるにつれ価値観も思考も変化している。しかし、伝統というものの理解が変わってきているのではないかと不安に思う。だからこそ、この研究は自分なりに考える“日本の伝統”というものと現代における“変化”というものを追及した。

漆というものを、この二年間学び、触れ、自分の手で作品を作り上げてきたが、まだ自分の中では身近な存在として感じることができていない。それでも、この作品を一番身近に感じるものに関連して研究できたことにより、漆の存在を更に探求していく起点になった。